

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が華中～朝鮮半島～日本海～東北地方にのびている。前線近傍の東北～北陸で激しい雨を解析。西～北日本で雷を検知。
- ② 500hPa 5940mの高気圧に対応する地上の高気圧が、日本の南でほとんど停滞。南西諸島と西～東日本では晴れている所が多い。沖縄の南には300hPa -33℃の寒気を伴った上層寒冷低気圧(UCL)があってゆっくり北進。高気圧縁辺の下層暖湿気や上空寒気の影響により局地的に対流雲が発達。強い雨や激しい雨を解析。雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、本州付近を南下し19日夜には、西日本の太平洋沿岸～伊豆諸島付近～日本の東にのびる。また、18日日中にかけて、500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した前線上のキンクが北陸付近に接近し、18～19日は、500hPa 5760m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフが東北地方～東日本を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響に加え、上空寒気や日中の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。前線近傍では強い風の吹く所がある。北～東日本では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に警戒し、東～西日本では注意・警戒。北日本では18日にかけて、東～西日本では19日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。東～西日本では18～19日にかけて強風や高波に注意。
- ② 18日夜には、500hPa 5580m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフが北海道地方を通過し、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では18日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項②の高気圧は、18日にかけて日本の南にほとんど停滞。南西諸島と西～東日本では18日にかけて晴れて気温が上昇し、猛暑日または猛暑日に近い気温となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、高気圧縁辺を回る下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。南西諸島では19日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：北陸・九州北部120、関東・中国100mm。
- ② 波浪(明日まで)：近畿・中国・九州北部3m。
- ③ 高潮(明日まで)：東～西日本で、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雨と雷及び突風に関する全般情報」を17時頃に発表予定。